

遠賀川流域活動報告

第4回 I LOVE 遠賀川 流域リーダーサミット

平成26年1月26日(日)、遠賀川の水環境改善について話し合う「I LOVE 遠賀川流域リーダーサミット(主催:国土交通省遠賀川河川事務所、NPO法人遠賀川流域住民の会)」が、田川青少年文化センターで開催され、約350人の方々にお集まりいただきました。

このサミットは、平成20年1月から隔年で開催され、2年前の第3回では、福岡県知事、流域の22自治体の首長、遠賀川河川事務所長により、母なる遠賀川をより美しく誇りの持てる川として次世代に引き継ぐとした「遠賀川流域宣言」が採択されました。宣言後は、北九州市が河川保全活動に取り組む団体を助成する制度を創設したり、遠賀川河川事務所が作成した「水防災・水環境河川学習プログラム」を、直方市、飯塚市、田川市の小学校で試行いただくなど、遠賀川の水環境改善の取り組みが着実に進んでいます。

4回目となる今回は、流域の活動団体から環境保全の取り組みが紹介されるとともに、川を軸としたまちづくりをテーマに直方、田川、嘉麻、芦屋の4市町長と河川管理者によるパネルディスカッションが行われました。



第34号
平成26年3月



主催者代表挨拶
NPO法人遠賀川流域住民の会
理事長 松岡 朝生 氏



開催地市長挨拶
田川市長 伊藤 信勝 氏



会場の様子



第4回 I LOVE 遠賀川 流域リーダーサミット

～アトラクション～

「田川創作炭坑節CDR21」によるパフォーマンス

福岡県立大学(田川市)、九州工業大学情報工学部(飯塚市)の学生さんらで構成された「田川創作炭坑節CDR21」の皆さんによる歌とダンスがオープニングを飾り、会場が手拍子と大きな拍手に包まれました。



～第1部 流域住民団体の活動紹介～

ホタルのすみやすい環境づくり

～地域ぐるみの取組み～

香月・黒川ほたるを守る会 会長 岩本 正 氏

ホタルの生息地としては都市部にある黒川の香月地区では、地域ぐるみでホタルのすみやすい環境づくりが行われています。当会は、川の清掃や、初夏の「ほたる祭り」、近隣の6小学校児童を対象にした「ほたる教室」、ホタルを通じた韓国などとの国際交流に取り組んでいます。ホタルが舞う時期には町内会などの協力により、約100本の街灯が夜間2時間消灯され、約2kmに及ぶ道路が通行止めとなるそうです。

昨年10月には地元の要望が実り、水辺の生き物や環境を学べる北九州市立「香月・黒川ほたる館」が開館しました。

岩本会長は、”川で遊ぼう、川で学ぼう”と会場に呼び掛けておられました。

※香月・黒川ほたるを守る会は、1992年結成。遠賀川の支流・黒川で、ホタルの住みやすい環境作りの活動を続けています。



子ども達が川で遊べるように

～教育活動にも尽力～

田川ふるさと川づくり交流会 会長 村岡 洋 氏

遠賀川流域中流部では、アユやタナゴなどきれいな水に生息する魚が見られなくなっています。川で遊ぶ子ども達を見かけることも無くなっています。子どもたちが川で遊んでいる姿を見ると安らぎを感じますが、子どもたちが川に入って気持ちいいと感じられる所が少なくなっています。

村岡会長は、”子どもたちが遊べる川に戻したい”と訴えておられました。

※田川ふるさと川づくり交流会は、1998年に発足。田川市の有志20人が毎月1回定例会を開き、河川敷の清掃や花壇整備等を実施しています。また、川に入ることを怖がらない子どもたちを育てようと、「タガッパ学校」を通じて、水質や水生成物の調査、サケの稚魚放流、カヌー遊びなどの体験教育を行ったり、学校での講演活動を行っています。



森が枯れれば水も駄目になる ～植樹や間伐に尽力～

遠賀川源流の森づくり推進会議 アドバイザー 青木 宣人 氏

遠賀川源流の馬見山の森林を守り、きれいな水を流域住民に届けることを目的とした植樹や下草刈りなどの活動を行い、これまでに約9ヘクタール分を植樹したそうです。数多い杉の放置林では、太陽光が地表に届かず、下草も生えずに土砂崩れの原因にもなります。放置林を減らすために間伐にも取り組んでおり、間伐材を使ったミニチュアバットや鉛筆立てを販売して、その収益金を苗木代とする独自の活動も紹介されました。

青木アドバイザーは、“森が枯れれば水も駄目になる。川の環境と一緒に森づくりについても考えてほしい”と訴えておられました。

※遠賀川源流の森づくり推進会議は1997年に発足。山の植樹や下草刈り、他団体と協力した河川清掃活動などのほかに、子どもたちにも「森」に関心を持ってもらうため、キャンプなどの体験活動も主催しています。



～第2部 流域のリーダー等によるディスカッション～

第2部では、「川を軸としたまちづくり」をテーマに、向野直方市長、伊藤田川市長、松岡嘉麻市長、波多野芦屋町長、松延福岡県河川課長、光橋事務所長をパネラーに、雑誌「九州のムラ」編集長の養父氏をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われました。

川による人材育成やまちづくりといった遠賀川との向き合い方についての意見交換があり、川づくりはまちづくりとの考えを共有しました。



直方市長
向野 敏昭 氏



田川市長
伊藤 信勝 氏



嘉麻市長
松岡 賢 氏



芦屋町長
波多野 茂丸 氏

パネリストの皆さん



九州のムラ編集長
養父 信夫 氏

コーディネーター



福岡県土整備部河川課長
松延 均 氏



遠賀川河川事務所長
光橋 尚司

【パネリストの発表概要】

- 田川市の伊藤市長は、彦山川を舞台とした川渡り神幸祭(県指定無形民俗文化財)を紹介され、約16万人の観客にも関わらず会場にゴミがないのは、会場に設置される子供達手作りのごみ箱や、祭りの後で大人と子供一緒に清掃活動のおかげだと述べられました。
- 嘉麻市の松岡市長は、市町村や世代を超えた多くの市民が共同して遠賀川をきれいにする取り組みとして、水源林の植樹や下草刈り、芦屋海岸の清掃活動を紹介されました。
- 直方市の向野市長は、あらゆる年代の子供達への環境学習活動や、市民に親しまれる遠賀川直方の水辺づくりに、NPO法人直方川づくり交流会が大きく関わってきたことを紹介されました。
- 芦屋町の波多野町長は、芦屋釜の原料となる砂鉄は遠賀川の流れで芦屋海岸に運ばれたものであり、芦屋釜が遠賀川の恵みであることを強調されました。
- 福岡県の松延河川課長は、川のネットワーク推進事業「ふくおか水もり自慢」など、福岡県が取り組む河川愛護団体への支援や啓発活動を紹介されました。
- 遠賀川河川事務所の光橋所長は、直方市や田川市での事例をもとに、地域住民の皆様に“自分事”として川づくりに参加していただくことの重要性を述べました。

【ディスカッションでの主なご意見】

- 子供達は、大人とともに川で遊ぶことで故郷の川の素晴らしさに気づく。
- 故郷の素晴らしい自然や歴史、文化を理解し、他地域の人々に自信を持って語れる人間を育てることが、まちづくりの第一歩である。
- 今の世代、特に子供達には、川や山に感謝する気持ちを持って欲しい。
- 遠賀川流域宣言に謳われているように、流域に住む私たちが連携してより美しい川として子や孫に引き継がなければいけない。
- 北九州市とも連携し、環境とエネルギーをテーマに民泊型教育旅行を企画・実施してはどうか。

彦山川直方市下境地区の河道掘削工事について

平成24年7月の九州北部豪雨で浸水被害や災害等が発生した彦山川では、洪水が安全に流れるように、昨年10月より直方市下境地区で川の断面を増やす河道掘削を実施しています。

この地区は、直方川づくり交流会が「自然と共に存する川づくり」というテーマで平成18年度から議論を重ねられ、平成19年3月に「彦山川夢プラン」の第1次提案がなされ、その後改訂が行われ平成21年3月の提案をもって現在に至っております。

工事にあたっては、直方川づくり交流会の皆様と意見交換を重ね、「彦山川夢プラン」を踏まえた自然環境に配慮した川づくりを行っています。

引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ致します。

彦山川夢PLAN（遠賀川夢プラン第4次提案）

自然との共存を目指す川づくり



遠賀川流域だより

発行 國土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949) 22-1830

FAX (0949) 22-2859

HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会

電話 0948-22-3535

<http://www.ongagawa.jp/>